



福祉に思う事

港北区福祉部長

鈴木 紀雄

七月十四日は父の正月命日である。私の生まれは太田区の羽田で、ここでは七月が盆である。父は盆の中日にこの世を去った。私が中学二年のことである。その様な訳で、今年も十四日に羽田で墓参りを済ませ、八十二才の母がいる川崎市新城の実家へ線香を手向けに立寄った。女手一人で六人の子供を育てた気丈な母であったが、此のころ物忘れが多くなって、少しボケ症状も表われて来たので、少々心配しながら母の部屋へ行ってみると、そこでは近所に住む母の友人で私も顔なじみのお婆さんが二人と兄嫁と母とで何か稽古をしているところでした。話を聞いて見ると、この二人は、近頃母が少しボケ気味な事から、ボケ防止をしてやろうと相談し、御詠歌を母に勧めてくれているところでした。「ミヨさん（母は美世子と云う）、念仏をとえればボケ防止になるし大丈夫」と、それは一生懸命に教えてくれています。

私は、他人の事ではなく、自分の事として福祉の心につれた実感を味わい、頭が下がりました。

福祉部長に就任して、機会がある毎に「福祉の風土づくり」の大切さをアピールする事にしている私は、母が受けたこうした福祉の心を港北区で、より広げていきたいと痛感しました。新羽地区社協

の設立と、機関紙発行に当たって、「福祉の風土づくり」と云う社協の事業の原点を見つめ、港北区に住んで良かったと思わせる、福祉社会の創造に向って、皆様の活躍の発達を、心から祈念しております。

青指について

青少年指導員会

会長 大谷 正憲

行政の一端をおぎなう青少年指導委員連絡協議会として発足して、二十有余年を迎えようとしています。

振り返って見ると青少年指導員としての役割をどのようにして達成出来るか、年間行事計画を立てその行事に対して、各町会の子ども会役員のご協力を得て、子ども達に呼びかけ、多くの行事に参加を得てまいりました。現在迄やってこられたのも一重に町会、先輩諸氏のご協力のたまものと感謝しています。今後の行事計画に対して、子ども会役員の方々にご協力を多に期待しております。

体指について

体育指導員会

会長 堀内 猛

町内会より推選され横浜市教育委員会から委嘱される、新羽地区体育指導委員連絡協議会は男性七名、女性一名で構成されている。

平素よりスポーツに深い関心と理解を持ち、地域住民の体育の向上に積極的に参画している。最大のイベントである連合健民祭をはじめ、事業計画に基づいて、六月の

め、事業計画に基づいて、六月のゲートボール大会、七月には少女スポーツ大会等と、毎月実施し大勢の参加を得ています。

今年度よりさわやかスポーツの一つとして、「インディアカ」を六月から毎週金曜日夜七時より、新羽小体育館に於て普及活動中です。ルールはやさしいので皆さんすぐ出来ます。たのしくさわやかに運動しましょう。

十一月には第一回町会対抗大会を計画しています。

新羽地区 老人クラブ連合会

会長 小林 清孝

新羽地区社協「ふくしのわ」発刊お祝い申し上げます。

私達は此の度新羽地区老連より発展的に分離して、新しく表記の名称の下に発足致しました。

構成は「新羽中央老人クラブ」「新羽町老人クラブ」「新羽亀楽会」「中之久保亀楽会」「北新羽のぞみ会」「松寿会」の六単位老人会の会員三百六十二人です。

新羽地区老連は毎月の六地区会長会議の綿密な討議を土台にゲートボール、研修旅行、囲碁等多彩な活動を実施し、今後の高齢化社会に対応して健康の増進、教養の向上、地域との連帯を強化し魅力ある老人会となる様心掛ける積りがあります。

之が為、新羽地区社協とも一層の連携をとり、相たづさえて社会福祉の向上に邁進する様願っております。

「他を思いやる心」

新羽中学校長 溝井 利夫

人間は、自分一人では、生活を維持することも、豊かにすることもできない。相互に依存し合う中で、自他が共存・共生できて初めて、幸せな生活への道が開かれる。

しかし、現実には、「だれにも幸福になる権利がある」ということのみを主張し、他人はどうであれ、自分さえよければよいという傾向がみられる。権利を正しく主張するのも必要なことであるが、同時に、人それぞれの立場で果たさなければならぬ義務を自覚し、その遂行に努めなければならない。

フランスの文豪、ユーゴーは「人生最高の義務は、他人を思うにある」と言っている。共生の義務を果たす原動力は「他人を思う心」であり、人を大切にすることもある。具体的には、家族を思う心、クラスや学校の友達のことを心配する気持ち、地域社会や国家の一員であることを自覚し、その発展に尽くそうとする心、さらに国際社会の一員として、広い心で人類の福祉に役立つ心とする心にある。

人間愛を基底に、他人の立場に立つて考え、他の幸せのために行動することが義務と思う人が、多くなればなるほど、世の中は温かく和やかになる。その中で、人はより幸福な生活を営むことができるにちがいない。



新羽町防犯活動報告

防犯部長 本間 欣哉

誰でも健康で心豊かな住み心地の良い町であってほしいと願っております。公的機関だけに任せておくだけでなく地域住民全てが、力を合せていく必要があります。

新羽町は昭和五十六年に港北区防犯モデル地区に指定され、七町会より二・三名役員を決め、多数の方々のご支援ご協力を頂き、現在の防犯部が出来ました。諸活動におきまして、今年も青少年の育成に向けての文集「若い芽」十号を発行予定しております。他に常に新しい防犯情報と致しまして、広報紙「こんにちは」二十五号を発行します。又、町民の情報の下に毎月一、二回重点的に、全員で夜間パトロールと、防犯灯の点検を行っております。

数年前、新田緑道公園が出来、平成五年には市営地下鉄駅が、二ヶ所出来ることで、人口の流入に伴う犯罪が多発される事が予想されます。私達役員が活発に活動しても必ずしも犯罪の減少が比例しないのが残念です。特権の持たないパトロールは、自分自身が危険であります。指導する場合言葉使いに特に慎重に、注意する事が大切です。

今後は更に、役員全員で反省と今後の防犯活動における情報交換を行い一丸となって、頑張りますので、町ぐるみのご協力を切にお願い致します。

笑がおど

あいさつ人とのであい

新羽中二年 橋谷一絵

地域福祉と賛助会

大竹町内会長 中山 福平

新羽地区社会福祉協議会設立にあたり、一言感想を述べさせて戴きます。

一口に福祉と申しましても福祉のやらなければならぬ事は奥深く、我々一年生には一寸想像も出来ない世界のような気がしてならないのであります。

現在も多くの方々が福祉の手を差し延べてくれる事を待っております。

福祉活動を思う

中央町内会長 中山 宏

新羽社協が設立され、それにもない広報紙「ふくしのわ」が発行されることになり心からお喜び申し上げます。

平素私達は福祉と云う言葉をよく耳にしますが、さて「福祉とは」と聞かれて、理論的に答えられる人は、何パーセントおられるだろう。

私は助成またはボランティア活

れる事と思っています。

それに加え年々増加して行くお年寄りの事を思うと、社会福祉の使命の重大さに身の縮る思いが致します。

平和で何の不安もない町作りには、福祉の充実なくして実現はありえないと思われれます。地域福祉の向上を計るには一人でも多くの方々が、賛助会に加入して戴く事を願っております。

どうか地域福祉向上のため、皆様方の尚一層のお力添えをお願い申し上げます。

新羽社協に希望を託して

新羽町内会長 高尾 毅

新羽連合町会に新しく社会福祉協議会が設立されました事は、誠に喜ばしい事と思います。

私は高齢化社会と、青少年の健全な育成の為に、ボランティア活加を充実させ、明るい町作りに活躍される様願っています。

この地に来て二十六年、新羽町内会は、東京其の他から移り住んだ人が多く、五十半と云う働き盛りで、老人会に入会させられるしまつでした。今日では世の中の例にもれず、七十歳以上が四十人になってしまいました。

新羽社協から独立して新羽社協が出来た事は、今後社協の進路を充分研究され、独自の真の福祉をめざされる事を住民は期待されます。

水害に会ったり、道を直したり、防火活動をしたり、その都度協力し合えた様に、高齢化する社会においても、おくれを取らぬ様、共に意識を高め合い乍ら乗り切る為にも、新羽社協が発展する事を祈ります。

社会福祉って何だろう

新羽町自治会長 野村 亘

人はこの世に生を享けてから、自分の意志で自由に生きてゆくもの、そして当然として年老いてゆくものと思っています。それが自分の意志にそむいて病に罹り、また、怪我をしてこれを治す為の闘病の結果、元の体に戻った人は幸いですが、不幸にして身体に何等かの傷害を残しても、なお生きてゆかなければならない人が少なくはありません。

昔は人生五十年と云われましたが、今は八十余年となり、何事もなくこの年まできた方も年齢と共に身体は衰えてくるものです。このような病める人、身体の不自由な人、また、年老いた人達と共に生きてゆく為には、我々は何等かの扶助や手助けをする必要が出て来ます。

新羽社協のみなさんで、福祉社会システムをもう一度真剣に考えて実行してほしいと思います。

町会と歩む子供会

新羽連合子供会理事 岸 浩子

私達子ども会は、体育指導員、青少年指導員の方々の協力を得、色んな行事に取り組んでおります。五月には「ウォークラリー」七月は「新羽地区相撲大会」「少年少女スポーツ大会」などがあり、日曜毎、暑い中汗を流し、練習に励んできました。八月には、このま

沢キャンプ場に行き、キャンプファイヤーや楽しいゲームをし、夏休みの思い出を作っていました。十月には、杉山神社の祭礼、健民祭、港北区子どもフェスティバルに参加など、沢山の行事があります。どの町会にしても、年々子供の数が減少してきて、各行事の参加者が少なくなり、行事があるごとに、子供を集めるのに苦労しています。参加してみれば楽しいことも沢山あります。親子で一緒に参加できるのも、小学生位までのように思います。

子ども会の役員も、たくさんの子供が参加出来るような行事等を考え、親子一緒に楽しめるようにと思っております。そういった機会には進んで参加し、子ども会を通じて地域とのふれあい、人との出会い、色々な体験でやさしく、たくましい、明るい子供に育ってほしいと願って役員一同、心を一つにして努力しております。



(新羽地区社協事業概要)

- ◆ 社協設立 四月一日 三六〇世帯
 - ◆ 会報発行 「ふくしのわ」創刊号
 - ◆ 社会福祉施設の慰問
 - ◆ 年末たすけあい運動
 - ◆ 会員相互の親睦
 - ◆ 新入学児童への黄色の帽子贈呈
 - ◆ 賛助会員の募集
- (きめ細かな福祉活動を目指し)



思いやり

新羽中 三年 金子 直美

福祉と聞くと私は、体の不自由な人の事を考えてしまいます。これは、私だけではなくだれもが考える事だと思います。家庭というわくの中で育ってきた私達に一番欠けているのが相手の立場に立って考えるということだと思います。これが本当の福祉の基本だと思います。例えば私は、手足を自由に使うことができるので、使えない人の事を考えて行動したことはありませんし、車椅子に乗っている人や、足をひきずりながら歩いている人を、ジロジロ見てしまったこともあります。これらの行動が相手の人をどんなにきずつけていたのかと思うと、反省しなければと思います。そして、これからは人の気持ちを考えて行動のできる人間になりたいと思います。これを福祉への第一歩として進んでいきたいと思っています。

差別をなくして
いくためには

新羽中 三年 梅園 夕子

平気で人を馬鹿にし、けなし、傷つけること。お年寄りや障害者を差別することの多い世の中で、本当に誰も傷つけてない、差別してないと言える人は、ごく一部の人がいないと思います。あるいは、それ以下だとも思います。自分ではそう思ったことはしてないと思っても、誰かが傷ついて

いるかも知れません。道を歩いていて、障害のある方に会って、「何この人」といったことを少しでも思ってしまったら……それは一種の差別だと思います。一人ひとりが思いやりの心を持ち、困っている人などにやさしさの手をさしのべていければ、差別も自然になくなり、もっと良い世の中になると思います。

もってますか

心にゆとりと思いやり

新羽中 三年 寒河江 友紀

あいさつの

言葉ひとつで明るい社会

新羽中 二年 久保田美穂子

かたもみ

新羽小学校 二年

すず木 みちこ

わたしは、このまえ学校からかえったとき、おかあさんにかたもみをしてあげました。

おかあさんはとてもよろこんでくれました。わたしは、「じょうず。」

とききました。そうしたら、おかあさんが、「じょうずよ、とってもじょうずよ。」

といいました。わたしはうれしくなっただんどんつづけました。そのつぎの日、また、学校からかえって、かたもみをしました。

「きのうよりもうまくなってるわよ。」

おかあさんが、いいました。

わたしが、もっとちからをいれてやったら、おかあさんが、「とってもさつきよりずっとときもちいいわ。」

といってくれました。

これからもやりたいとおもっています。

べんあて

新羽小学校 二年

渡辺 正哉

日ようびに、本とかダンボールをすてます。

そのとき、ぼくがしているおばちゃんに、「おはようございます。」

といいます。そうしたら、おばちゃんがつこりしてくれました。

ぼくはいいことをしたのかなとおもいます。でも、いつもおかあさんにないしょにしています。

そうじ

新羽小学校 二年

きし えみこ

わたしは、ときどき道のごみをほうきでかきます。

雨のときやしめりけのときには石やすながながれてきます。

だからつぎの日のそうじはたいへんです。石やすなが、はっぱにまじっておもたくて、なかなかちりとりの中へ入りません。

だから、おもいきってちりとりの中へほうきでおしこみます。

はんぶんおわりました。

また、ほうきでかきなおして、下のほうへいきます。

口がきけない人

新田小学校 三年

山口 麻衣子

ホテルに一ぱくした時のことでした。おかあさんと、おふろに入るためロッカーの所にいくと、女の人がかぎを持ってうろうろしていました。おかあさんが、「どうしましたか。」

ときいても、「ああ、うう。」というだけで、手をあわせたのむように身ぶり手ぶりではなしかけるだけでした。

おかあさんがかぎをあけてあげると、うれしそうになんども頭をさげて出て行きました。

「いいことしたね。」

と言うと、おかあさんは、「そうだね。あんなふうにくまっている人がいたら、たすけてあげなくちゃならないのよ。」

と言いました。

女の人のうれしそうすがたを見て、こんど、もし体が不自由な人がいたらたすけてあげようかと思いました。

私も手話でお話ができたら楽しいなあ、そうしたらもっと早く分かってあげられたのになあと、思いました。

体の不自由な人たち

新田小学校 六年

木嶋 貴秋

「体の不自由な人たちを見て笑ったりしては行けませんよ。」

と、よく言われます。

父は二十才ぐらいの時、交通事故にあり、両足を折って完全になおりませんでした。でも、父はい

つも家族のために働いています。二年の時、父の悪口を言われてと、泣きながらぐりかかりました。母に話したら

「世界中に、体の不自由な人たちがいっぱいいるんだから、父さんのことをはずかしがっちゃダメよ。」

と、言われたのが記おに残っています。

次の日、先生がこのことを話しましたが、だれもさわりだりしませんでした。ぼくは今でも、父さんの悪口はゆるさないと、思っています。

体の不自由な人がいても、足がすくんでしまふようですが、勇気を持っていいことはしていきたいです。

◆ 編集後記 ◆

今回新羽社協広報紙発行に際して、各町内会長始め各種団体、小・中学生の皆さんより寄稿をありがとうございました。

物豊かなれど心乏しく、他人には無関心、自分さえ良ければという昨今の社会情勢、「ふくしのわ」が明るく楽しい町作りの一端でも担えればと委員一同、汗水たらして、頭をひねってきました。

限られた紙面ではありますが、福祉活動に少しでもご理解いただければ、幸いです。

(進)

